

講演・セッション

T-Kernel2.0とT2EXの最新動向

2011年12月15日(木) 13:30 ~ 14:30

展示会場シアター1

プレゼンテーション:

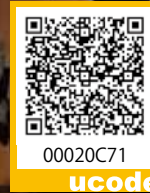
松為 彰(T-Engine フォーラム T-Kernel 2.0 WG 座長、パーソナルメディア株式会社 代表取締役)

金子 健(イーソル株式会社 エンベデッドプロダクツ事業部 マーケティング部 部長)

豊山 祐一(株式会社日立超 LSI システムズ 組込ソリューション設計部)

コーディネータ:

横田 廉(富士通セミコンダクター株式会社 経営推進本部 渉外部 担当部長)



00020C71

ucode



松為 彰氏
(パーソナルメディア株式会社)



金子 健氏
(イーソル株式会社)



豊山 祐一氏
(株式会社日立超 LSI システムズ)



横田 廉氏
(富士通セミコンダクター株式会社)

2011年5月17日、T-Kernelの最新バージョンである「T-Kernel 2.0」が一般公開された。本セッションは、その最新情報の紹介である。

●T-Kernel 2.0とT2EX(松為)

最初に、T-Kernel 2.0を策定したワーキンググループの座長である松為氏が概要を解説した。

T-Kernel 2.0は、従来のT-Kernel 1.0の設計方針や特長を引き継いだ上で、CPUの高性能化やデバイスの大容量化に対応した新OS。64ビットデータやマイクロ秒単位の時間指定などの新機能を追加した。もちろん従来版と互換性がある。

大きな特長は「ワンストップサービス」で提供されること。カーネル本体だけでなく、デバイスドライバやEclipseの開発環境、エミュレータなど、開発に必要なソフトウェア一式をまとめてダウンロードできるようにしてユーザの利便性を図っている。

さらに2012年前半には、ファイル管理機能やネットワーク通信機能を追加する「T2EX」(T-Kernel 2.0

Extension)も提供する予定である。

●多彩な応用製品(松為)

続いて、各社からT-Kernel 2.0を使った各種製品やソリューションが紹介された。

パーソナルメディアは、リアルタイムOSの「PMC T-Kernel 2.0」のほか、デバイスドライバの「PMC T-Driver」、T-Kernel 2.0を搭載したSDK付きの組込みボードである「T-Kernel 2.0 リファレンスキット」、Android端末の周辺機器をT-Kernelで開発するための開発評価キット「T-Kernel for Android Open Accessory」、WindowsとT-Kernelを並列実行できる「RTH with T-Kernel」など、充実した品ぞろえを発表した。

●T-KernelもAndroidも動く(豊山)

T-Engineフォーラムの幹事会員である日立超 LSI システムズはT-Kernel2.0を中心としたソリューションを数多く提供しているが、その中から豊山氏が紹介したのは「リアルタイム・オーガナイザ」。これは、

マルチコアでT-KernelとLinux / Androidを同時に実行し、RTOSの性能と汎用OSの機能の両方を実現するシステムだ。

ほかにも、各種ミドルウェアや、T-Kernel 2.0の上にマイクロソフトの.NETを載せた「T-Kernel 2.0 × .NET Micro Framework」などを紹介した。

●充実した保証とサポート(金子)

同じくT-Engineフォーラムの幹事会員であるイーソルは、2010年12月にいち早くT-Kernel 2.0のサポートを発表した。同社はT-Kernelに高速起動や論理ファイルシステム、システム保護など各種の機能を追加して、これらの品質保証やサポートも行っている。金子氏によると「誰でも無償で利用できるT-Kernelだからこそ、当社のようなメーカーによる品質保証やサポートのサービスが重要」とのこと。

同社のOSであるeT-KernelのT-Kernel 2.0対応版は、2012年2Qにリリース予定。①